

第 60 回破壊靱性検討会 議事録 (案)

1. 日 時 : 平成 26 年 12 月 11 日(木) 13:30~17:00

2. 場 所 : 東京商工会議所 401 会議室

3. 出席者

平野主査(IHI),朝田副主査(MHI),北條(NRA),神長(東電),坂口,大厩(関電),堀家(四電),伊藤(中部電),小林,中川(原電),石川(電発),曾根田(電中研),辻(富士電機),田中(JSW),廣川(日立 GE),榊田(東芝),高本(MHPS),富松,廣田(MHI) [事務局] 富澤(電気協会)

4. 議 事

4.1 前回議事録他

事務局から、前回(第 59 回)議事録(案)が資料 60-2 で説明され、一部文章を修正することで承認された。

11/7 の第 43 回構造分科会の議事録(案)の紹介があった。JEAC 4206 改定案の書面投票入りが承認された。マスターカーブ法に関する試験方法 JEAC 4216 改定方針の中間報告を行った。

4.2 JEAC4206 改定案 構造分科会書面投票

JEAC 4206 改定案に対して 11/4~12/5 にて構造分科会の書面投票が行われた。その結果(資料 60-3-1)、反対票はなく、保留意見 1 件があった。

完本版と新旧比較表で一部相違しているところがあり、両者のチェックを各担当で年内に行う。書面投票の配布した資料(完本版と比較表)を事務局から委員に送付する。チェックした結果を分科会長に報告し、対応を相談する(書面投票では、基本的には完本版が正であり、新旧比較表は参考資料扱いになる)。山下委員の誤記の指摘は反映する。また、他に誤記がないかも確認する。

廣田委員から保留・参考意見に対する回答案が資料 60-3-2 で説明があった。保留意見に対しては解説に「非延性破壊及び延性破壊に対する破壊靱性の妥当性の確認」を追加する。参考意見の非破壊試験技術の進歩等の反映を引き続き検討することは、次回改定に向けて検討する。非破壊試験技術の進歩については、非破壊検査(?) 関連の検討会の情報を提供してほしいことは口頭で分科会に依頼する。最大仮想欠陥に対する妥当性の説明に対するコメントについては、クラッド貫通表面欠陥は代表的なものとして参考に計算したものであり、説明用 PPT ではこの評価結果及びクラッドの損傷事例の記載を添付に回し、最大仮想欠陥のページには解説に記載にしている内容程度にする。回答もその主旨で見直す。

4.3 JEAC 4201-2007 についての質問 (その 2)

小岩氏から JEAC 4201-2007 の脆化予測法に対して 2 回目の質問があった(資料 60-4-1)。回答案が平野主査から資料 60-4-2 で説明があった。質問 2 の温度が変わると速度式の各種の量が変わるという意見に対しては 270~290℃でフィッティングしているので、この

範囲であれば係数はカバーされていることを追記する。2/2 の構造分科会にかけ、その後の規格委員会の承認を得て回答する。修正版を委員にレビューにかける。

4.4 ミニチュアコンパクト試験片の JEAC 4216 への導入

平野主査から資料 60-5 で説明があった。前回の検討会のコメントを踏まえて見直して、前回の構造分科会で説明したもの。次回の検討会で規格改定案を審議し、2/2 の構造分科会に提案する。

5. その他

- ・技術評価の対応の一環として、JEAC 4201-2010(2013 追補)の誤記チェックをする（担当：堀家委員と朝田副主査）。
- ・次回検討会：1/21(水)or22(木) 13:30～